

## 多田雅史

**件名:** 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 5 7】  
**添付ファイル:** 発売から30年 睡眠導入剤「デパス」に深刻な副作用が次々と (FRIDAY) - Yahoo! ニュース.pdf; 法務省への抗議書\_松本俊彦講師.pdf; 「睡眠薬を飲みすぎると認知症になる」は本当か? その実例 (週刊現代) \_ 現代ビジネス \_ 講談社 (4\_4) .pdf; 「睡眠薬を飲みすぎると認知症になる」は本当か? その実例 (週刊現代) \_ 現代ビジネス \_ 講談社 (3\_4) .pdf; 「睡眠薬を飲みすぎると認知症になる」は本当か? その実例 (週刊現代) \_ 現代ビジネス \_ 講談社 (2\_4) .pdf; 「睡眠薬を飲みすぎると認知症になる」は本当か? その実例 (週刊現代) \_ 現代ビジネス \_ 講談社 (1\_4) .pdf; 不眠症の4タイプ。自分のタイプに合った薬を処方してもらっていますか? P2\_ | 薬を使わない薬剤師 宇多川久美子のお薬講座 (サライ.jp) - Yahoo!ニュース.pdf; 不眠症の4タイプ。自分のタイプに合った薬を処方してもらっていますか? P1\_ | 薬を使わない薬剤師 宇多川久美子のお薬講座 (サライ.jp) - Yahoo!ニュース.pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約300カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。  
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1)新規の情報提供希望者が身近におられた場合、**BYA-HPの「お問合せ」**をご紹介ください。  
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2)有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3)情報の中で「**拡散すべき情報**」があれば、皆さんの判断で「**転送・SNS拡散**」してください。
- (4)また、皆さんが支援する政党があれば、**ベンゾジアゼピン薬害の実態を政党にお伝えください。**

### 【目次】

1. 法務省への抗議文の郵送 (添付)
2. 「睡眠薬を飲みすぎると認知症になる」は本当か? その実例
3. 発売から30年 睡眠導入剤「デパス」に深刻な副作用が次々と (添付)
4. 不眠症の4タイプ。自分のタイプに合った薬を処方してもらっていますか? | 薬を使わない薬剤師 宇多川久美子のお薬講座 (添付)

### 【記事】

1. 法務省への抗議文の郵送 (添付)  
再犯防止シンポジウム2019「依存症からの回復」  
におけるNCNP松本俊彦医師の講師採用に対する抗議書  
シンポジウムを主催した法務省大臣官房政策立案総括審議官  
西山 卓爾 殿あてに抗議書を郵送した。大麻・コカインなどの違法薬物を非刑罰化すれば、日本は違法薬物大国になって取り返しがつかなくなる。その誤った意見を持つ松本俊彦をシンポジウムの講師に採用することは「法務省が違法薬物の自由化」を推進しているとの誤解を国民に与えかねない。

2. 「睡眠薬を飲みすぎると認知症になる」は本当か? その実例  
<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/69093>

以下引用

『眠れないからと、ついつい軽い気持ちで睡眠薬に手を出したばかりに、認知症を発症する――。』

実際、本誌が、医師や薬剤師、介護施設のヘルパー、認知症の親を介護する家族などに取材をしたところ、「睡眠薬を飲んでから認知症になった」という事例が次々と出てきて、その数は優に50を超えた。詳しい事例を紹介する前に、まずは睡眠薬にどのような種類があるのか確認しよう。病院で処方される睡眠薬は、大きく2種類に分類される。

一つは、冒頭にも紹介したハルシオン、ドラール、サイレースなどのベンゾジアゼピン系＝「BZ系」。もう一つが、マイスリーやルネスタなどの「非BZ系」だ。』(1頁)

『睡眠薬の使用率は高齢になるほど上昇し、60代では12%、70代で19.2%、80歳以上で24.8%となる。意外にも女性のほうが使用率が高く、70歳以上の女性では4人に一人が服用している。』(1頁)

『「一時的に使うならまだしも睡眠薬を長期間飲み続けるのは、やはり認知症のリスクを高める危険性があります。誰でも高齢になれば、肝臓や腎臓の機能が衰え、薬が身体から抜けにくくなってきます。睡眠薬は多種多様で、1～2時間の短時間で効くタイプから、10～20時間以上、効果が持続するものもあるので、薬が抜けきらないうちにまた睡眠薬を飲んでしまうことで、朝も昼も、意識がもうろうとする『残眠』の症状が出ます。この状態が続くと、徐々に認知機能が衰えてくるのです」

さらに睡眠薬の怖いところは「依存性」にある。飲まない眠れなくなってしまい、そう簡単にはやめられない。しかも、だんだんと体に耐性ができ、効きが悪くなるので量が増える。』(3頁)

不眠でベンゾジアゼピンを服用すると、やがて、薬物耐性が生じて服用量を増量せざるを得なくなる。そうすると、依存状態になり、服用を続ける限り気が付きにくい、入院等でベンゾジアゼピンを断薬すると一気に離脱症状を生じて、入院目的とは別の疾患を発症して、治療困難状態になる。応急的には、ベンゾジアゼピンの再服用しかないが、長期間にわたりベンゾジアゼピンを服用していれば、減薬・断薬は極めて困難になる。また、高齢者の場合、体内に蓄積しやすいため、認知機能障害を発生する。さらに、厳しいのは、高齢者ではなく生産労働人口にカウントされる世代であり、ベンゾジアゼピンの副作用の奇異反応による「性格の変容」が生じて、様々な社会的トラブルに遭遇し、失職・家庭崩壊へと進む。不眠は生活改善により治療すべきであり、ベンゾジアゼピンは応急的な鎮静効果しかなく、本来、「連用」してはいけない薬物である。

### 3. 発売から30年 睡眠導入剤「デパス」に深刻な副作用が次々と (添付)

<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20200107-00000006-friday-soci>

以下引用

『このクスリの恐ろしさは、医師の指示通りに服用しても依存症になってしまう点にある。やめようにも「離脱症状」と戦わねばならなくなる。服用量を急激に減らしたり、中止することで痙攣(けいれん)発作、せん妄(時間や場所がわからなくなる、論理的な会話ができないなどの症状)、不眠、幻覚、妄想などに襲われるのだ。

独立行政法人『医薬品医療機器総合機構』(PMDA)は、17年3月、「漫然とした継続投与による長期服用を避けること」や「用量の遵守」を呼びかけると同時に「社会不安障害に苦しむ30代男性」の症例を示した。この男性はデパスを3年にわたって服用していたが、服用をやめたところ、意識消失、痙攣、朦朧(もうろう)状態などの重い副作用が出たという。しかも、離脱症状は長期服用しているすべての人に起こる可能性があるという。』

特に、日本で汎用されているデパス(エチゾラム)に対する危険性の報道記事が急速に増加している。デパスのみならず、すべてのベンゾジアゼピンには「依存性」があり、デパスだけではない。デパスの何倍も力価が強く依存性が高いベンゾジアゼピンは多くある。デパスが注目されているのは、多量に精神科以外の一般診療科で処方されているせいである。『**一般診療科⇒デパス処方⇒耐性増加⇒デパス他のベンゾジアゼピン増量⇒薬物依存⇒離脱症状⇒精神科が敗戦処理**』のパターンが定着している。デパスの汎用は、精神科の繁栄につながっている。しかし、精神科医も「ベンゾジアゼピン依存症」の患者の治療は難しいので、診察(敗戦処理)したくないだろう。

### 4. 不眠症の4タイプ。自分のタイプに合った薬を処方してもらっていますか? | 薬を使わない薬剤師

宇多川久美子のお薬講座（添付）

<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20200106-00010000-seraijp-life>

以下引用

『作用時間が短い睡眠薬は、急激な効き目によって一時的に記憶が飛ぶ健忘や異常行動が見られます。睡眠導入剤にもこうした副作用があり得ます。睡眠導入剤というと“軽め”のイメージがありますが、決して軽い薬ではありません。』

ベンゾジアゼピンのオンパレードになっている。ベンゾジアゼピンは「短期間の鎮静効果しかなく、連用してはいけない薬物であり、万一、連用すれば「薬物依存」となり、「離脱症状」を避けられない。そして、違法薬物よりも「処方薬依存」はより深刻である。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会